巻頭言

［特　集］ 特別企画

日本獣医師会雑誌 通巻900号発刊記念座談会

このたびの日本獣医師会雑誌通巻900号の発刊にあたり，日獣会誌の歴史・意義を再確認するとともに，第75巻第1号（令和4年1月発行）から予定している獣医学術学会誌部分の電子化後も紙面発行を継続する会報部分のさらなる充実に向け，令和3年8月19日（木），特別企画「日本獣医師会雑誌通巻900号発刊記念座談会」が開催された．

座談会は，日本獣医師会雑誌の編集発行に深く携わってこられた各分野の先生方をお招きし，本会藏内会長を囲んで和やかな雰囲気の中進められた．ここに内容を掲載する．

【座談会出席者（以下，本文中含め敬称略．*は司会）】

藏内勇夫（日本獣医師会会長）
境　政人*（日本獣医師会副会長兼専務理事・日本獣医師会雑誌編集発行人）
酒井健夫（日本獣医師会顧問・前日本獣医師会獣医学術学会誌編集委員長）
佐藤れえ子（日本獣医師会理事・日本獣医師会獣医学術学会誌編集委員長）
横尾　彰（日本獣医師会理事・日本獣医師会雑誌編集副委員長（産業動物臨床分野））
加地祥文（日本獣医師会理事・元日本獣医師会雑誌編集委員（公衆衛生分野））
井土俊郎（日本生物科学研究所名誉顧問・元日本獣医師会雑誌編集委員（昭和61～平成7年度，平成17～30年度／24年間：家畜衛生分野））
山村穂積（日本獣医療倫理研究会（JAMLAS）会長・元日本獣医師会雑誌編集委員（平成5～19年度／15年間：小動物臨床分野））
栗本まさ子（日本獣医師会特任理事（女性獣医師活躍推進担当）・元日本獣医師会雑誌編集委員（平成7～9年度／3年間：農林水産省畜産局衛生課））

開　　会

事務局　ただいまから日本獣医師会雑誌900号発刊記念座談会を始めます．

昭和23年12月に，日本獣醫協會雑誌として創刊した現在の日本獣医師会雑誌は，令和3年10月に発行する第74巻第10号をもって通巻900号となります．この節目を迎えるに当たり，日獣会誌の歴史，意義を踏まえ，第75巻第1号から予定している獣医学術学会誌の電子化と，一方で印刷発行を継続する会報誌のさらなる充実を含め，日本獣医師会雑誌のみならず本会事業の将来を展望する特別企画としてこの座談会を開催する運びとなりました．

本日は，日本獣医師会雑誌の編集発行及び本会の獣医学術学会活動に長年携わってこられた各分野の方々においでいただいております．ご多忙のところお集まりいただき，ありがとうございました．

ここからの司会進行は，現日本獣医師会雑誌編集委員会の委員長であり，本誌の編集発行人である境　政人副会長兼専務理事にお願いをしたいと思います．境副会長，よろしくお願いします．

境　ただ今ご紹介いただきました境です．この雑誌の編集委員長を務めております．よろしくお願いいたします．

冒頭に事務局からご紹介したように，本誌の後半部分のページである，学術論文を掲載している獣医学術学会誌につきましては，来年1月からオンラインジャーナルに完全移行する方向で取り組んでおります．

境副会長兼専務理事

ちょうどこの時期に900号という節目を迎えますことから，日本獣医師会雑誌編集委員会では特別企画を掲載することにいたしました．その一端として，前回は日本獣医師会雑誌創刊50周年の600号発刊時，20年前に行った座談会企画を，あらためて開催したいと本日お集まりいただきました．

これまで長年にわたり本会の活動に参加され，また日本獣医師会雑誌の編集に携わってこられた各分野の皆様には，今後の日本獣医師会雑誌の在り方のほか，公益社団法人として本会が取り組む事業等につきまして，忌憚のないご意見を賜りたいと考えております．どうぞよろしくお願いいたします．

それでは，まず冒頭に藏内会長からご挨拶をいただきます．

藏内会長

藏内　皆様こんにちは．日本獣医師会会長の藏内でございます．本日は大変ご多忙の中，座談会にお集まりいただきまして誠にありがとうございます．厚く御礼を申し上げます．

日本獣医師会雑誌は，昭和23年創刊ということです．私はまだ生まれておりませんので，本誌の歴史から見れば私はまだ新参者ということになるわけです．私が本会の理事に就任したばかりの頃，前回の600号記念座談会が行われました．当時の日本獣医師会雑誌は，会員構成獣医師による学術研究業績の発表の場として論文が誌面の大半を占めており，一部では編集内容に不満を抱く読者もあったとお聞きをいたしております．

以降，本誌の編集委員会では，会報部分の充実に取り組むとともに連載企画を開始し，第56巻第4号から会報部分を前半に移動する等の工夫をしてまいりました．毎月私たちの手元に送られてくる日本獣医師会雑誌は，会員構成獣医師にとって獣医師会の会員であることの証であり，本会と会員構成獣医師とをつなぐ大きな役割を担ってまいりました．

この機会に，あらためて本誌の役割を踏まえ，学術研究業績の取りまとめである論文の審査及び公表に一層務めるとともに，本会からの獣医事情報等の発信のみならず，地方獣医師会の活動状況を紹介し，会員相互の連携親睦を密にするよう，誌面の充実を図りたいと考えております．

一方，これまでの間，日本獣医師会では，獣医療界が抱える多くの課題に取り組んでまいりました．既に解決した課題もあれば取組みを継続している課題，さらに，ワンヘルスのように早急に推進すべき重要な課題も山積しております．

ついては，この機会にわれわれ日本獣医師会が取り組むべき課題についても論議をいただき，公益法人として社会貢献を踏まえた事業活動の在り方，会員構成獣医師が業務の中で実践できる知識，技術の提供方法，獣医師の取組みが国民に理解され，より一層社会からの評価を得るための方策等についてご提案をいただきたいと思っております．

ご参会の皆様方におかれましては，今後の本誌の在り方，さらには本会事業のさらなる発展のため，忌憚のないご意見をお出しいただきたいと思っております．どうぞよろしくお願いいたします．

境　ありがとうございました．さて，本日は日本獣医師会雑誌通巻900号の発刊にちなんだ座談会ですけれども，今日の獣医界が抱える課題は非常に多岐にわたっておりますので，さまざまな観点からぜひ闊達なご意見をいただきたいと考えております．

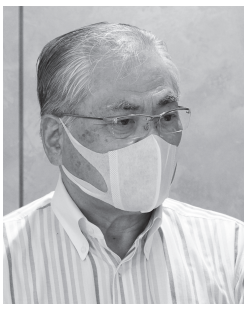
本会の組織・事業をめぐる課題

境　まずは，獣医療が抱えるさまざまな課題について議論いただければと思っております．主な課題としては，①獣医師会組織率の継続的な低下，②獣医師会が企画する学会や講習会への参加者の低迷，③獣医師会の事業運営の硬直化や事業参加メリットの低下，④獣医師に対する社会的評価及び処遇改善への対応，があります．これらの課題について先生方からぜひご意見をいただければと思います．

それから，いまお手元にお配りしたのは職域別，世代別の獣医師会の入会率の推移です．10年ごとの比較では，年を追うごとに入会率が低下しているのが現状です．世代別にみると，20代では35%，30代では47.5%の組織率ということになります．

全体の組織率は概ね年間1%弱ぐらい低下をしておりますけれども，近年は1%強で推移する傾向になってきています．若い方に入会していただくことがまず課題です．職域別にみると，都道府県職員は94.8%，団体職員は61.8%となっています．そして，小動物開業では82%です．ここは一見組織率が確保されているようですが，勤務獣医師になると33%と非常に低い数字となっています．約7,400名おられる勤務獣医師の組織率は大きな影響を与えているのではないでしょうか．

まず，小動物の分野でご活躍されている山村先生，いかがでしょうか．


山村元委員

山村　私は小動物臨床の分野ですが，獣医師会以外にもいろいろな獣医師の団体や研究会ができていますよね．そういう意味では，近年小動物診療に関しての情報源がすごく多くなったと思うんです．以前は，日本獣医師会雑誌がほぼすべての情報源だったのが，今ではさまざまな雑誌やインターネットを通じた情報が豊富にあるわけです．このことで結果的に日本獣医師会雑誌の獣医事・学術情報源としての魅力が相対的に低下してしまったと感じます．学位取得を目的に学術論文を投稿している人たちには重要な発表の場ですけれども，一般の臨床獣医師にとって日本獣医師会雑誌に，さらには獣医師会会員であることにどれだけの魅力があるかというと，その魅力はあまり感じていない現実があります．

獣医師会会員の魅力といえば，狂犬病予防接種事業についても同様です．今でも地方では狂犬病予防接種事業は大変重要視されていますけれども，東京をはじめとする都市部では狂犬病予防接種はほとんどが各診療施設での個別注射になっている中，狂犬病予防接種事業を中心として組織を運営する時代ではないと思うんですね．狂犬病の予防接種のためにみんなで連携しようということが，特に若い先生方には嫌われているのではないかと感じています．

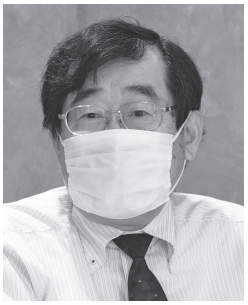
そうなると，今まではみんなで獣医師会の会員になって狂犬病予防接種事業に取り組んで，その収入で会費を払って，また会を盛り立てていこうとなっていたものが，今後は個々の獣医師に委ねられる部分が大きくなると思うんですね．一方，個々の獣医師が自らの診療施設の収入の中から会費をしっかり払うということは，本来は会の活性化につながるはずなんですよね．それが起こらないというのは，ただ惰性で会員をやっているだけの人が多いのではないでしょうか．自ら会費としてお金を払っているのであれば，例えばその会に研究報告しようとか，いろんな新しい技術を学ぼうとか，あるいは仲間や友達をつくろうとか，いろんな活動をして自らのスキルアップにもつなげたいと思うはずなんです．そういう意味でも，近年の獣医師会には情報源としての魅力が足らないのではないかという気がします．

例えば，何か商売をするときには，経営者と顧客という全く異なる属性，背景の人の間で物を売らなければいけないわけで，経営者が顧客のニーズを汲み取ってさまざまな施策をとるわけです．ところが獣医師会の場合は，獣医師が顧客ですので，すでにお互いにわかっているような気になってしまっている．実際にはいろんな職域の獣医師がいて，それぞれに望むことがあるはずなのに，会員の獣医師も何も考えてない人が多いのではないかと思います．ですから，会員に何かを考えるきっかけを提供し，そして会員がしっかり考え，会員が何を望んでいるかということを日本獣医師会として直接汲み取ることができたらもう少し良い方向に進むのではないかなという気がします．

究極的な言い方をすると，日本獣医師会があって，会員の地方獣医師会があって，さらに支部があって，支部を構成する支部会員がいて，という組織の仕組みそのものの問題かもしれません．会員獣医師にとって一番身近であるはずの支部の中で何やら派閥や揉め事があったりするような話も聞こえてきたりして，なかなか近所付き合いのしにくいところがあるのではないでしょうか．そうなると，獣医師会に入っていたって意味がないし，決まりごとばかりで窮屈だというふうなことになりかねません．

会員制度の在り方を見直したり，専門分科会的な形で新たに支部を作ることもできるわけですから，各個人が会費を払い，積極的に活動して会を運営していくような仕組みができ，今，何に悩んでいるのかを把握したら，地方獣医師会と日本獣医師会ももう少し変わるかなと思っています．

境　産業動物の分野につきまして，横尾副委員長，いかがでしょうか．


横尾理事

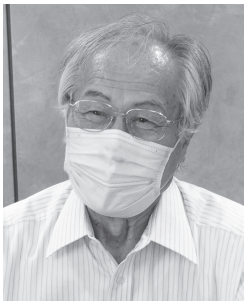
横尾　若い方，特に小動物勤務獣医師の獣医師会入会率が低いということでは，やはり収入の低さ，代診や宿直の大変さなども少なからず影響しているのではないでしょうか．何か若い人向けの対策が必要なのかなと感じます．そして会社勤務の方も入会率が低いですが，企業によっては獣医師免許を持っていてもその位置づけが明確ではなく，獣医師ではない社員と同様に扱われていることもあるんじゃないかと想像しています．

私自身決して詳しくはないのですが，将来的な獣医師免許の国際化ということも考えていかなければいけないと思います．世界中全部で，というわけにはいかないでしょうが，少しずつでも日本の獣医師免許が活かせる国や地域を増やすことは大切です．そして，獣医師免許の更新制度のようなものを考える時期に来ているのではないかと思っています．更新制度といってもいろいろな方法があり，必ずしも更新試験をすることがすべてではないと思います．例えば5年に一度，必要な講習を受けてから登録しましょう，というような話でもいいかもしれ

ないし，まだ議論の余地があろうかと思います．

講習会については，獣医師会が取り組むからには，受講者の人たちが成長を実感できないとなかなか参加してもらえないと思います．今，PRのやり方は工夫されてきているので，例えばPR用に講習会の内容のダイジェスト的な動画，そんな数十秒ほどで一部が垣間見えるような，受講したくなるようなものをつくる新しい方法も考えていく必要があるのかなと思いました．

境　民間研究機関のお立場で，井土先生，いかがでしょうか．


井土元委員

井土　私のかつての職場には，獣医師免許を持っている職員が30名近くいるんですけれども，獣医師会の会員はとても少ないんです．なぜ入らないのか聞いてみると，彼らからは，何のために入るのか，どんなメリットがあるかわからないという答えが返ってきます．

学会誌などの学術情報はインターネットで見ればよい，となると，会費を払うメリットをどう作り出すかということになるわけです．公益法人として情報公開はとても重視されているわけですが，例えば概要的な話は誰でもアクセスして見られるけれども，その詳細は会員しか見られない，といった情報の差別化も考える必要があるのではないかという感じはいたします．

家畜別の専門獣医師化が定着している今，限られた範囲で活動していると視野が狭くなる恐れがあります．獣医師会という組織の一員として，さまざまな人と関わりながら広い視点を持つことにより，色々な刺激が受けられると思います．

この意識が大切で，個人で考えているとどうしても唯我独尊的になり，同質情報にしろ，異質情報にしろ，外部からの新たな情報が入りにくくなると思います．それを防ぐためにも，獣医師として最新の情報を仲間との交流を通じて習得していく価値があると思います．このあたりを踏まえて，やはり会員になればこれだけのメリットがあるんだということを日本獣医師会と地方獣医師会が共に強くPRしていく必要があるのではないでしょうか．

境　学会，講習会の話題が出てまいりました．それでは佐藤理事，いかがでしょうか．

佐藤　日本獣医師会誌に対する評価や獣医療界の抱える課題の現状を考える時，これは時代の流れそのものなんじゃないかという感じがいたします．まさに時流ということだと思うんですね．

佐藤理事

獣医界全体からすれば，さまざまな分野の学会や集まりがあって，色々な情報が手軽に得られる現状は非常に喜ばしいことです．獣医師免許の国際化というお話もありましたけれども，アジアに目を向けたり，欧州の獣医学教育国際認証を取得して教育の国際化を目指す大学が出てきたり，全体としては非常に良い方向に進んでいると思います．

そういう中で，獣医師会も組織自体が絶えず変革していかないといけないんじゃないかと思います．

私も地方獣医師会で理事を長く務めさせていただいておりますけれども，やはり地方は地方で仲間がいて良い一方，情報が限られてしまったり，新たなことになかなか踏み出せなかったりすることもあります．

そういう意味で，先ほど山村先生の分科会制のお話を興味深く聞かせていただきました．例えばワンヘルスや狂犬病というキーワードごとに分科会を設け，全国的なつながりの中で活発に議論をし，それを地方にも還元していくようなシステムが作れると，自分たちの会としての帰属意識が出てくるんじゃないかと感じます．

そして，日本獣医師会雑誌の学術雑誌としての在り方に目を向けると，長年にわたり審査員制を基盤として一生懸命にやってきたというのは非常に大きな財産です．その上で，将来に向けた大きな方向性としては2つあると思います．

まず一つ目は，学術雑誌としての質の向上の観点から，国際的に開かれたジャーナルとしての英文化が必要ということです．

一方，もう一つは獣医師一人ひとりが「生涯現役」として絶えず日々の研鑽を積み，日本獣医師会雑誌がそれを発表する場であり続けるということです．臨床家であれば，自分が診療した症例から問題を汲み上げ，それを分析して次につなげる作業を求められる存在であり続ける限り，日常の診療の中から抽出された症例報告は非常に重要な意味を持つと思います．日本獣医師会雑誌はそうした日々の現場の情報を大切にして，それらを学術的な形で掲載できるようにサポートしていく役割を果たすべきです．そうなると，日本語の雑誌であることの意義は大きくなります．

この2つのちょっと相反する方向性をどんなふうに発展させていくかが，学術雑誌として今問題になっている点ではないかと感じております．

境　ありがとうございます．本誌の英文化について

は，アジア地域からの研修生を受け入れる事業を実施するにあたり，研修生の実績を英文で掲載することを認め，和文翻訳も入れたという取組みを行っております．今後，国際化も視野に入れながら検討を進めていきたいと思います．

続いて，女性獣医師活躍推進委員会の委員長をお務めの栗本理事，いかがでしょうか．

栗本特任理事

栗本　男性に比べ著しく入会率が低い女性獣医師に関するお話をさせていただきます．平成25年に日本獣医師会に女性獣医師の活躍推進に向けた検討をする委員会が発足しました．委員会では，結婚や子育てなどで一度職を離れた無職の女性獣医師に再び職場に復帰してもらうための対策を考えましたが，その情報を無職の女性獣医師の方々にどう伝えたらよいかわからなかったのです．大学では，新卒の方の就職先は把握されていますが，その後職場を辞めてしまった人は把握していない，仕事を辞めたときに獣医師会も辞めてしまっていると，つながりが切れてしまうのです．復職やご主人の転勤で居住する地域が変わった時，地元の獣医師会に入会しようとしても新たに入会金から払わなければならないということで再入会を躊躇されることもあるようでした．そこで委員会では，休会や退会・再入会の手続きを簡単にできるようにすることと，獣医師会に学生時代から入れるようにできるだけ学生の負担を小さくしながら早くから獣医師としての繋がりを育んでいくことを提案しました．

また，小動物診療の分野では，院長先生だけが入会すればいいんだという風潮があったり，何かしら性別役割分担意識みたいなものがあって，女性は会の活動には参加しなくていいという意識が残っていたりすることもあるようでした．そういう意識を変えていきたい，獣医師なのだからみんな獣医師会に入るのが自然で，仕事は辞めても獣医師会には入り続けていてほしい，ということを伝えたいと考えました．

獣医師会のロゴマークを名刺などに印刷しよう，獣医師会バッジをつけようという呼びかけもしてみました．かつてイギリスに出張し，産官学のさまざまな立場の獣医さんたちと会う機会があり，みなさん名刺に同じマークをつけていらして，これは獣医師会のマークなんだと王冠をかたどったマークを誇らしげに紹介してくれたことが強く印象に残っていました．日本では，名刺に獣医師と書かないことも多いですが，英文で名刺を作るときはDVMと書きます．もっと日本でも名刺に獣医師と書こう，獣医師会の会員は獣医師会のロゴをつけよう，と提案しました．それが獣医師としての社会的な責任や矜持，そういう意識の共有につながって，獣医師会の加入促進にもつながってほしいと考えたのです．

獣医師会は何をしているのかよく分からないという声も聞かれます．日本獣医師会では実にさまざまな課題について検討し，取りまとめや要請活動を行っているわけですから，これらを分かりやすくまとめて，獣医師会雑誌にも載せるといったきめ細かい努力も必要ではないでしょうか．どういうことを考え，何をやっているかがより分かりやすくなり，会員になろうという方も増えるんじゃないかと感じます．

境　ありがとうございます．学生についてのお話がありましたけれども，日本獣医師会では，今年4月から，獣医学共用試験に合格した学生に合格証を無償で送ることにいたしました．獣医師会雑誌についても無償で5年生，6年生の2年間提供することにいたしました．こうした活動を通じて学生へのPRを進めまいりますので，引き続きご支援をお願いしたいと思います．

さて，公務員獣医師の分野でご指導いただいている加地理事，いかがでしょうか．

加地理事

加地　公務員の入会率は非常に高いです．これは，全国家畜衛生職員会という都道府県の家畜衛生公務員獣医師の会と，全国公衆衛生獣医師協議会という公衆衛生公務員獣医師の会の2つの大きな団体があり，ほぼ全員が加入することがあります．加入することが地方獣医師会への加入につながるような位置づけになっていて，非常に組織率が高いのです．

問題は，公務員獣医師そのものの数が減ってきていることです．1990年代，小動物診療獣医師を描いたコミックのブームがあったりして小動物臨床分野の人気が上がったりする中で公務員志望の人が減ってしまった．それに拍車をかけるように，2000年代に入ると，いわゆる団塊の世代の人たちが60歳で定年を迎え，大量採用されていた世代の人たちがどんどんいなくなってしまったわけです．

近年，光明が見えてきたのは，藏内会長のご尽力で，福岡県で特定獣医師職給料表が新たに制定されたことです．これまで6年制教育になって以来，医療職（二）という給料表だったのが，獣医師の専門職としての給料表ができて，処遇の底上げができたのです．今年の3月からは徳島県でも同様に新たな給料表ができました．

そういう中で，何とか魅力のある職場を作り，新型コ

ロナ，新型インフルエンザなどの共通感染症にも対応し，ワンヘルスの実践に向けて活躍できる獣医師を確保していきたいですね．新設された岡山理科大学の卒業生も出てきますので，大いに期待しているところです．

一方，地方によっては獣医師不足に関連して，獣医師以外の職員にも，と畜検査など獣医師が担当していた業務をやらせてくれというような要望も出てきています．規制緩和や地方分権の流れの中，ややもするとこうした声に押し流されていく可能性もありますので，ここはぜひとも全国の地方獣医師会を基盤とした組織力と日本獣医師会の政治力で公衆衛生，家畜防疫を担う獣医職の確保に努めていくべきです．こうした活動にも，情報誌としての日本獣医師会雑誌の意義はあると思います．

境　長年にわたり役員のお立場で獣医師会に貢献いただき，獣医学術や学会，そして獣医師会組織を知り尽くしておられる酒井顧問，いかがでしょうか．

酒井顧問

酒井　総論と各論に分けてお話をさせていただきたいと思います．

まずは日本獣医師会雑誌全体の総論です．現代は情報過多の時代です．とにかく巷間にあふれる情報量が多い．だからこそ，魅力ある記事，あるいは質が保証された記事，ターゲットが明確になった記事というのは，付加価値が高いと思います．数あるメディアの中で日本獣医師会雑誌が「勝ち組」になるためには，記事の内容を十分に高めていく必要があります．

本日，座談会に出席する前に，平成8年に掲載された発刊50周年の座談会記事を拝見しました．その当時は，まだ情報化社会はそれほど進んでなく，日本獣医師会誌と日本獣医学会誌の2つが代表的な専門誌でした．それから25年を経た今では，学会は必ず定期刊行物を出版し，学会等の大会を開催するとされていますので，情報が多いのは当然の時代です．だからこそ，魅力ある記事が求められているのではないかと思います．

魅力ある記事とはどういうものでしょうか，伝えたいことが明確であり，読者はそれを読むだけではなく，理解して行動することができるということです．それが結果的に獣医師会や獣医師自身の活動の強化につながると考えます．

次に，各論として，日本獣医師会雑誌の後半部分の獣医学術学会誌が来年からオンライン化されます．過去の学会誌の大きな転換期は，日本獣医師会の学術3学会それぞれが別々に編集委員会を組織し，発行していた3つの雑誌の体裁を1つにした時でした．今回は，完全にオンラインジャーナル化されるということは，これと並ぶ大きな転機で，佐藤先生がお話しされたように，英文化も視野に入れつつ，前半の会報部分は会員に向けて，後半の部分は世界に向けて発信していくことが必要ではないかと思います．

手元に日本獣医師会雑誌に掲載された記事のテーマの一覧がありましたのでまとめてみました．1997年から2001年までの5年間と，2016年から2020年までの5年間，この間に約20年の差がありますが，掲載されている内容が全く違います．最近の5年間で多かった記事は，ワンヘルスで12件，次いで自然災害と動物救護が7件，家伝法や豚熱が7件，そして動物看護学と動物看護師が6件です．20年前に多かった記事はBSE，鳥インフルエンザ，そしてナホトカ号の重油流出事故です．日本獣医師会雑誌はいずれの時代も社会を反映した記事を扱っていたことが理解できます．さらに，20年前も後も共通して扱っている記事は女性獣医師の活躍推進，大学の獣医学教育，そして狂犬病予防対策です．こうしたこともしっかり分析して，読者に読んでもらえる内容づくりを前提に，編集をしていく必要があると思います．

境　ありがとうございます．最後に藏内会長，いかがでしょうか．

藏内　皆さまの意見を聞いて感じますのは，なるほど，この長い年月の間にはわれわれのライフスタイルも随分変わったということです．一方で，獣医界では，変わるべき時代にあっていまだ変わっていないところがあるのかなと感じました．新しいニーズにわれわれがどう対応することができるかということを，日本獣医師会雑誌の中でも論じていかなければならないなと，そういうふうに思いました．

ワンヘルスに関する取組みの推進

境　ありがとうございます．

それではここからは，個別の課題について，ご意見を頂ければと思います．まずは，「ワンヘルスに関する取組みの推進」についてお伺いします．今，まさに新型コロナがまん延している状況であり，ワンヘルスの取組は国際的にも重要になっています．まずは加地理事からお願いします．

加地　公衆衛生分野は，と畜検査も食品衛生も，もともと人と動物の共通感染症が中心だったわけです．その後，食品分野以外にも，新型インフルエンザをはじめ，新型コロナ対策にも関わるようになり，今，全国の都道

府県では感染症対策に獣医師が必ず携わっています．これは今から20年前では全く考えられなかったことです．

厚生労働省の中でも，私が感染症情報管理室長をやった当時，獣医師が感染症対策をやるということにとても違和感を持たれていた時代があったわけですが，今ではBSEに係るWHOの会議は半分が獣医師ですし，今回の新型コロナウイルスに関する中国の武漢に派遣されたWHOの調査団も半分は獣医師が研究者として参加しています．人獣共通感染症対策，公衆衛生対策から「ワンヘルス」という分かりやすい，世界的に共通な言語で語られる時代になったことはとても嬉しいことです．

これに携わる公務員獣医師が今後もどんどん出てきてくれるように，公務員を人気のある職域分野にしたいなと思っています．そのためのさまざまな発信の場としても，日本獣医師会雑誌に期待しています．

境　ありがとうございます．続いて酒井顧問，いかがでしょうか．

酒井　ワンヘルスの取組みは近年非常に活発になっておりますが，国内でも地域差が出てきたような気がしています．先行しているのは福岡県です．他の県も福岡県に倣って，活動する必要があると思います．これだけ素晴らしい見本がありますので，各県で条例を制定するなど，獣医師会としても力を発揮することが必要です．

さらに，薬剤耐性菌対策，人と動物の共通感染症対策をはじめとするさまざまな課題をまとめて，ワンヘルスをキーワードに国民全体の意識を高めていくツールが欠かせません．大切なのは教育です．やはりこれも福岡県方式を参考にして，学校教育，ひいては国民教育によって普及啓発ツールをぜひ検討していく必要があります．

加地　今の酒井先生のお話に賛成です．私たちは教育ツールとして，令和4年度から体験型の家畜衛生・公衆衛生実習を実施する予定です．獣医学共用試験を合格した大学5年生以上の学生に公衆衛生，家畜衛生の現場を体験してもらうことによって，大学の中だけではなく，本当の獣医療の世界，ワンヘルスの現場を見てもらう機会が準備できると期待しています．

境　酒井顧問から福岡の例が出ましたけれども，藏内会長，いかがでしょうか．

藏内　ワンヘルスという言葉が，国の内外でかなり認識をされてきたということは大変いいことだと思っています．

しかしながら，日本で一番進んでいる地域だと言われる福岡県でも，ワンヘルスとは何ぞやと，よく分かっていない方々も多いわけです．今，福岡県でやっているのは，教育の中でしっかりと教えようということです．小学校から高校まで，それぞれに応じた冊子を県の教育委員会が作り，必ず教えるということになりました．ですから，ひょっとしたら，子どもたちのほうが先にワンヘルスとはどういうことなのか，われわれはワンヘルスの中で何をすべきか，自分たちは将来どこに向かうべきかを分かってくれるんじゃないかと思っています．

もう一つ，処遇改善の話もありましたけれども，ワンヘルスのことも，AMRのことも，本当は国が先頭を切ってやらなければならないことです．ところが国はなかなか動こうとしない．そこで，たまたま私は地方議員ですから，それであれば地方から変えていこうと考えたわけです．

今後は，ワンヘルスをアジア地域に広げていかなければなりません．古くは天然痘をはじめとして，感染症の多くがアジアから九州を経由し，日本に入ってきている歴史があります．今こそわが国が持つ獣医学的な知識やそのネットワークをアジア地域に還元しなければと，そういう役割がわが国にはあると，思っています．

私が日本獣医師会の会長に就任した当時，たまたま当時日本医師会会長だった横倉先生は私と非常に近いところにお住まいで，横倉家と長いお付き合いをしてきた関係もありまして，二人で何かやろうという話から「これはもうワンヘルスしかない」ということになりました．酒井顧問には大変なお力添えを得て，医師会との連携もでき，今日まで来たわけですけれども，私は，獣医師と医師は，この地球の健康，人間の健康を守る同じ役割を果たしているということを広く知っていただきたいと考えています．その上で，全国で地方の医師会と獣医師会が学術協定を締結できたことは大きなネットワークの完成だと思います．今後さらに，獣医療の国民生活の中での重要性の理解が進み，獣医師の処遇改善等に結びついていけばよいと思います．

境　福岡県獣医師会ではワンヘルスの冊子も作られて，非常に分かりやすいものができていますので，きっと子どもたちの世代が親の世代を引っ張っていくようになるのではないかと期待しています．

また，アジア地域をリードしていく役割も日本に課されています．日本獣医師会もアジア獣医師会連合（FAVA）の会員としてしっかりやっていかなければなりません．藏内会長は現在，FAVAの副会長であり，来年には会長になられますので，私たち獣医師会もしっかり藏内会長を支えながら，また，藏内会長のリーダーシップに頼りながら頑張っていくことが必要です．

井土　新型コロナウイルス感染症に関しては，厚労省

から出てくる情報も右往左往している印象です．私は50年近く感染症の分野でやってきましたけれども，ワクチンの特性やウイルスに関するさまざまなデータを畜産分野では蓄積し，予防対策に生かしてきているわけです．感染実験にしても，死亡までの経過や死後の病理データについて，動物の豊富なデータを獣医療分野では持っているわけです．未知のウイルスに立ち向かうとき，厚労省と農水省の壁を取り払って，もっと畜産分野の情報を活用してもよいのではないかと思います．

山村　開業の立場から少しお話させていただきます．今回のコロナに関しては，飼い主様が感染した場合のペットの取扱いに関する問合せがたくさんありました．そういう時，日本獣医師会が対応に関する情報をもっと出してくれると助かります．

一般の検査会社からは，動物のPCR検査を広く事業化する相談を受けたことがあります．でも，それはすごくいいことだけれど，陽性になった時にどうするかという動物病院側の対応ができていないのです．そうなると陽性の動物が出たときにまず考えられるのが飼育者は殺処分してしまう．動物愛護の観点から，そして臨床の現場として，これはよくないと思って対応に悩んだことがあります．

人も，動物も，社会全体も，みんなが幸せになるために，ワンヘルスという観点からも，日本獣医師会として素早い対応と情報発信をメディアを通じて全国に出せると，少し社会からも見直されるのではないかと今回はちょっと感じていました．

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）なんかも，今，臨床では随分問題になっていますしね．

境　今の山村先生のご指摘，臨床現場ではとてもご苦労されたと思います．東京都の場合は，東京都の予算も若干ありましたので，東京農工大学にPCR検査を行っていただいて取組みを実施されたと思います．実は，これをもっと発展させようという取組みがあります．

人と動物の共通感染症については，医師よりもどちらかというと獣医師のほうが得意分野ということでしょうし，ワンヘルスの主役として活躍するのはやはり獣医師でありたいと思っております．

そして，井土先生のご指摘の通り，私も農水省のOBですが，関係省庁が素早く，しっかり仕事ができるように，獣医師会としての支援も力強くやっていきたいと思っております．

マイクロチップの指定登録機関としての取組み

境　それでは次に，「マイクロチップの指定登録機関としての取組み」についてです．日本獣医師会は6月15日に動物愛護管理法に基づくマイクロチップ指定登録機関に指定されました．まずは長年ご苦労されてきた藏内会長，お願いいたします．

藏内　マイクロチップにはもう30年ほど関わっています．私と動物愛護活動との関わりは，副総理兼財務大臣で，自由民主党獣医師問題議員連盟会長の麻生太郎先生のお母様，吉田　茂元首相のお嬢様である麻生和子さんから，イギリスに動物愛護運動の視察に行きなさいと言われたことに端を発します．

麻生和子さんは，吉田　茂翁がイギリスに行かれたときに秘書役で一緒に行かれて，舞踏会のような会に出られた時に，現地のご婦人から「日本もこれからヨーロッパと付き合っていくのなら，動物愛護をやらなきゃ駄目ですよ．ヨーロッパでは，その国の動物愛護の度合いがその国の文化のバロメーターになっていますよ．」と言われたそうです．

そして，帰国された麻生和子さんは，まだ動物愛護が根付いていなかった日本で，動物愛護運動を始められたんです．

麻生和子さんから勧められてイギリスに出かけ，動物愛護団体を訪れたら，名誉総裁がフィリップ殿下で，年間20億円くらいの寄付を集めて運営されているということでした．動物の終生飼養にも厳しく取り組んでいて，個体の管理をマイクロチップでやっているわけです．しかも，その情報管理はどこがやっているかといったら警察なんです．もうそれに驚きました．それで，帰国後すぐに衆議院議員であられた北村直人先生に「先生，日本でもこういうのをやらなきゃ駄目ですよ．」と申し上げたんです．こういうことに，日本獣医師会も取り組むべきだと．

以来長い時を経て，今回幸いに皆様方の努力で，日本獣医師会がわが国唯一のマイクロチップ登録管理団体ということに決定されましたけれども，今後は，これを国民にとって役立つ仕組みとして作り上げていかなければなりません．

境　ありがとうございます．今回，国内唯一の指定登録機関として指定されたことで，狂犬病予防事業とのワンストップサービスへの道筋もできました．今後，さまざまな事業への展開も期待できます．地方獣医師会あるいは小動物の獣医師のお立場として，山村先生，いかがでしょう．

山村　マイクロチップは，私も我が家の犬や猫に入れています．でも，実際，登録したらそれで終わりなんですよね．番号もそのうち忘れちゃうんです．一般の飼い主様もそうだと思います．ペットショップから買ってき

て，マイクロチップを登録しても，その書類を大事にしている人とそうでない人がいる．特に血統書もないし，番号はどうでもよくなってしまう部分があるのかもしれません．

常日頃から思っているのは，今ではスマートフォンのアプリで，狂犬病予防法の犬の登録，マイクロチップの番号，狂犬病予防接種や各種ワクチン接種が済んだという情報，その他の診療情報などそういうものが全部入れられて，アプリで全部見られたら，飼い主様はずいぶん便利に活用するのではないかということです．せっかく良い仕組みがあり，飼い主様も登録したりワクチンを打ったり色々やっているのだから，みんなで便利に使えばいいのです．引っ越した時や亡くなった時もアプリできちんと登録できると便利です．アプリを作るのに最初はお金がかかるかもしれませんが，作ってしまえばあとは飼育者と日本獣医師会双方にとっての利益につながります．ぜひやってほしいです．

酒井　今，山村先生も言われたように，マイクロチップは飼い主のメリットと診療のメリットをもっとアピールするべきです．会員構成獣医師の連携体制の構築も必要であり，診療に役立つ，また飼い主の皆さんにも役立つということをもっと広報する活動が必要です．

藏内　地方会の活性化にもなると思います．地方会が役割をしっかりと果たしてもらえれば，結構いろいろな事業につながる可能性を持っています．

山村　国内で販売される犬猫のデータを飼育者の皆さんと一緒に活用しないのは，もったいないと思いますね．

境　まずは国民へのサービスをしっかりやりながら，獣医師会組織あるいは会員構成獣医師のメリットにもなるといったことを実現していきたいと思っていますので，ぜひ，地方獣医師会，会員構成獣医師の皆様には，全面的にご理解とご協力を賜りたいと思っております．

愛玩動物看護師制度の確立と高度なチーム獣医療提供体制の整備

境　次の課題として，「愛玩動物看護師制度の確立と高度なチーム獣医療提供体制の整備」についてお伺いします．愛玩動物看護師法が令和元年６月に成立し，令和４年５月１日に完全施行されます．獣医師以外に初めて小動物臨床分野の国家資格者が出るわけで，獣医師は雇用者として，雇用促進あるいは処遇改善に取り組まなければいけません．先ほど山村先生からお話がありましたように，この愛玩動物看護師の専門性を活用して，獣医療版の地域包括ケアシステムの確立も考えなければなりません．現在，小動物診療施設の64％は一人獣医師の病院です．愛玩動物看護師が診療補助行為を行える立場で，地域サービスもできるような仕組みができないかなと検討しております．いずれにしても，動物病院にとって，事業の効率化や多角化を進め，収入が増加しなければ雇用促進や処遇改善につながらないわけですので，その点をしっかり進めていく必要があると思っております．

まずは，今回の法整備にあたり，一般財団法人動物看護師統一認定機構長としてご苦労されている酒井顧問からお願いします．

酒井　法の施行が決まり，令和４年には現任者向けの講習会が開始され，予備試験の実施，明けて令和５年の春には第１回目の国家試験というタイムテーブルが動いています．その中で，獣医師会としては，活動方針の一つである処遇改善に対応すべき課題だと思います．動物看護師の方々にとって，国家資格を取得するメリットの一つが処遇改善です．

一方，資格を持たない動物看護職の方々の呼称を定めること，これはやるべきではないと思います．獣医師とともに診療領域においてチームを形成するのは愛玩動物看護師です．獣医師会が資格を持たない方の名称を検討することは，この両者の連携にマイナスになります．獣医師会ではすでに検討を始めているとのことですが，これはやめていただきたい．

境　資格を持たない方の呼称については，たくさん名称があるものをどう整理するかというところが大切と考えており，積極的に何かこれにしましょうというものではありません．いずれにしても，農林水産省からのご指導があっての対応かと思っております．

続いて佐藤理事，いかがでしょうか．

佐藤　大学でも取り組んでいるチーム獣医療の中で，動物看護師さんは大きなウエートを占めるわけです．動物看護師としての技術的，学術的なレベルアップが求められる中で，愛玩動物看護師の国家資格化は大変喜ばしいことです．今後の処遇改善につながってほしいと思います．

さらに，地域のかかりつけ獣医師を中心として，愛玩動物看護師の活躍を得て高齢者支援などのさまざまな地域活動を行っていこうとする地域包括ケアシステムの確立については，獣医師，愛玩動物看護師，さらには動物愛護団体の方や医師，行政の方々などとの幅広い連携ができればいいなと感じております．

山村　小動物臨床の立場からは，色々と考えるところがあります．愛玩動物看護師の方たちも，小規模なワン

マンプラクティスのところと，大規模な診療施設では，働く環境や業務内容が違うと思っています．

大規模な診療施設では，手術担当とか入院担当とか，いろんな担当が決まって，それに対するきちんとした教育ができて専門性を高める仕組みができています．けれども小規模な個人の診療施設では，受付から何から全てやるようになっていますよね．そういう点で処遇改善を考えますと，大規模のところは楽観的に見ています．これはもう必然的に業務も効率化して給料もよくなるだろうと．問題は小規模なところです．個人の診療施設では，国家資格を取得した人にそんなに給料を出すのだったら，今まで通りの資格を持たない人でいいよということが起こるのではないかと考えています．ワンマンプラクティスでは，「今日は休みだけれども，ちょっと手伝ってくれ.」というような過剰労働のようなこともあるようです．日本獣医師会としては，こういう小規模の診療施設を念頭に，雇用者である獣医師に対し，労働関係法令，獣医療関係法令に違反しないように，しっかり指導することも大切です．

横尾　私は産業動物診療が専門ですので門外漢で恐縮ですが，最近は犬猫も長生きになってきていて，認知症になってしまうことも多いと思います．そういう時に，人の巡回診療のようなニーズが動物にも出てくると思います．

そういう場面でチーム獣医療や愛玩動物看護師が必要とされるところもあるのではないでしょうか．

女性獣医師の活躍推進への取組み

境　次に，「女性獣医師の活躍推進への取組み」についてご意見を伺います．現在の獣医学系 17 大学の学生の構成を見ますと，6 割以上が女性ということです．欧米では 8 割以上が女性という状況になってきているところもございます．わが国でも，いずれ女性獣医師が大半を占めるということになりますので，女性獣医師の活躍の場をどう確保するかが重要です．まずは長年取り組んでおられます栗本理事，いかがでしょうか．

栗本　女性獣医師の活躍推進に向けた理解醸成などの活動を，これまでずっと続けてきておりますけれども，小動物診療分野で課題が多く残っていることが分かっています．地方会での優良事例や学会年次大会のシンポジウムの動画や委員会の報告書を女性獣医師応援ポータルサイトに紹介していますので，ぜひそれを地域や職場で見ていただいて，改善につなげていただくようにお願いしたいところです．

そして，長く仕事が継続できる環境づくりについては，安心して休めるようにすることが大切です．みんな，職場に迷惑をかけないように休みたいのです．そのためには代替獣医師と人材バンクが必要です．このことはずっと言われているわけですが，当面は難しいということですので，ホームページにある求人サイトをできるだけマッチングしやすい形にして活用していただくことが大切だと思っています．

また，女性獣医師の声が獣医師会活動に反映されやすいように，女性役員を増やす目標に向けた取組みを継続し，進捗状況調査を毎年行うことにしています．

さらに相談窓口の充実も進めたいと思います．まずは，色々な組織や団体の相談窓口へのリンクを日本獣医師会のホームページで紹介するなど，ニーズを聞きながら，少しずつ進めていきたいと考えております．

境　ありがとうございます．相談窓口や人材バンクは，かつて私どもも検討したんですけれども，なかなか難しい部分がございました．特に人材バンクは許可制となっており，専任職員が必要などの厳しい条件がありましたので，条件を比較的緩和できる都道府県に人材バンク機能を持っていただけないかという相談をしておりますが，全然反応がないということです．

佐藤　女性獣医師の活躍推進については，本当に何年にもわたり精力的に検討していただいて，いろんな方策を提言していただいています．男性獣医師にも，もう少し取組みと成果を見ていただきたいと思います．

境　栗本理事がまとめられた委員会報告書の中にも，女性獣医師が働きやすい職場は男性獣医師を含む獣医師全体が働きやすい職場だと指摘されていて，まさにそのとおりです．われわれ男性もしっかり自分のこととして考え，行動していきたいと思っております．

酒井　私が時に卒業生から相談されるのは，パートナーの理解です．女性獣医師の方々が現場から離れないようにするには，やっぱりパートナーの理解が必要です．獣医師会組織と職場環境，そしてもう一つ大切なのが家庭環境です．そこまで踏み込んで支援しないと解決できないと思います．

栗本　男性獣医師がどのように女性獣医師をサポートしているかということも含めて，ロールモデルとしてさまざまな事例を紹介していきます．

山村　獣医師会についても，育休，産休で一度やめ，後にあらためて入るときの入会金がなければ入りやすいですよね．

栗本　地方会によっては，既にそういう対応を取ってくださっているところがあります．日本獣医師会でも総務委員会で検討いただいていると思います．

境　入会金の問題も総務委員会で議題に取り上げております．まず，できるところからやろうということで進めています．

日本獣医師会の組織基盤強化の在り方

境　次に，「日本獣医師会の組織基盤強化の在り方」について伺います．魅力ある事業活動ということで，まずは知識の情報源として毎月届く日本獣医師会雑誌の内容の充実，研修会・講習会の充実が必要です．

日本獣医師会では認定・専門獣医師制度の確立に向けて努力しておりますので，高度な専門技術が学べる研修制度を作り，それを広告可能とするように農水省にも働きかけていこうと提案しています．

マイクロチップは，狂犬病予防事業との一体的な運用を行うことによって，飼い主さんにもサービスの向上が図られますし，また，付加価値のある事業展開により，飼い主さんにとっても獣医師にとってもメリットのある運用ができると考えています．

さらに，地方獣医師会あるいは構成獣医師の役割分担，連携も重要です．日本獣医師会は団体会員制をとっており，理事も地区別あるいは職域別に選出されております．理事の皆様には，それぞれのお立場で日本獣医師会あるいは地方獣医師会の事業活動にご指導いただければと思っております．

役割分担に関し，学術学会年次大会あるいは地区学会との関係，またほかの学会との連携といったものについても，今後，検討が必要と考えております．

先ほど山村先生からお話がありましたように，新型コロナウイルス感染症の犬猫の検査や一時預かりについては，体制を作り，これをきっかけに地域包括ケアシステムの確立につなげていければというふうに考えています．

山村　小動物臨床では，学位よりも専門医の資格が欲しいという若い獣医師が圧倒的です．日本獣医師会が認定・専門獣医師制度を構築できれば，若手の獣医師や興味がある獣医師が集まるのではないかと思います．

境　小動物分野では大学や学会を中心に既に認定医や専門医の仕組みに取り組まれているわけです．そういった先行的に取り組んでおられる方々のご協力と参加がぜひ必要だというふうに思っております．残念ながら，そういった先行事例についても，現在の獣医療法第17条に照らしますと，それを広告することができないという解釈になっておりますので，これを何とか変えていただくための制度化を日本獣医師会がリードして行うことによって，認定・専門獣医師の資格を取得した方々が積極的に飼い主さんにお知らせできる，そういう仕組みに持っていきたいと思っております．

横尾　獣医学術学会年次大会と獣医学術地区学会，関係学会との連携の在り方についてですけれども，色々な学会や研究会が，ここ2年くらいコロナの影響でウェブ開催になっています．ウェブは便利な反面，自分が好きなものだけ視聴して，周りに目が向かなくなるのではないかと危惧しています．リアルな場で集まって，いろんなことを見聞きすることも大切だと思います．これからコロナ後に向けてどう進んでいくかが大切です．

境　現状では緊急事態宣言が全国に広がるような状況になっておりますが，何とかワクチン接種が進み，日常の中で感染症予防の対応ができるようになってほしいものです．

令和4年は11月にFAVA大会と併せて獣医学術学会年次大会を福岡で一緒に開催します．ポストコロナで，「さあ，行くぞ．」という機会にしたいと思っています．ぜひご協力を賜りたいと思います．

山村　若い先生方を見ていると，何か職業獣医師のような感じがします．研修など中身は高度化されて，臨床にも適性はあるのに，自分の興味のないことはどうでも良いように見えます．そして，診療は常に相手があるわけです．愛玩動物の前にいる飼い主様への対応が大切です．ところがコミュニケーションスキルを持たない人がすごく多い．これからの獣医学教育では，心の教育というか，飼い主様に喜んでもらえるコミュニケーション能力も教えていかなければならないと思います．

そして，年齢が70歳を超える世代になると，事業継承の問題を抱えています．ワンマンプラクティスの診療施設では閉鎖するところがあります．規模や売上げの大きいところの中には，企業病院グループに売られることもあるわけです．そうすると，売られた先の企業病院と獣医師会とのつながりも課題になります．規模や売上げの大きな診療施設が企業化されていくと，獣医師会とは違った方向に進んでいってしまう可能性もあります．こうしたことにも日本獣医師会は取り組む必要があります．

日本獣医師会雑誌の役割と誌面の充実

境　今回の座談会の最後に，日本獣医師会雑誌そのものにターゲットを当てた議論をいただきたいと思います．獣医学術学会誌の質の向上と論文投稿の促進については，電子投稿・審査システムの導入は非常に効率的で評判もいいということで，今後のオンライン化でますま

す利便性を拡大していきたいと考えております.

それから，獣医学術・情報提供媒体としての会報誌面の充実については，法制度や国内外の動きを正しく，わかりやすくお伝えしていくことが重要です.

地方獣医師会や会員構成獣医師から活動報告を募り，掲載することも有効です．獣医師会をもっと身近に感じ，獣医師会活動により積極的に臨んでいただけるのではないかと思っているところです.

まずは，酒井顧問，いかがでしょうか.

酒井　日本獣医師会雑誌の充実は，やはり魅力ある内容に尽きると思います．数ある獣医療関係の情報の中でも日本獣医師会雑誌は飛びぬけて魅力がある，最初にそこにアクセスしたいというようにならなければいけません.

そのための提案として，投稿規程の見直しをしてはいかがでしょうか．学会誌の投稿規程では，投稿規程と編集マニュアルが混在しています．編集マニュアルと投稿規程は明確に分けたほうが投稿する側はわかりやすくなります．また，投稿規程の中で，掲載区分と編集区分について，今一度整合をとられたほうがよいと思います.

学会誌についてお願いしたことは，今後も医学中央雑誌あるいはJ-STAGEへの掲載はぜひ続けるべきです．質保証の上では，ぜひこうした努力はすべきです.

井土　J-STAGEへの掲載など，オープンアクセスの確保は非常に重要です．一方，日本獣医師会雑誌の掲載誌面に誰でもアクセスできて，論文を手に入れることができるということは，逆に言えば，日本獣医師会雑誌を読むために，会員である必要はないという解釈もできるわけですね.

山村　記事を読みたい人はお金を払うというウェブ会員のような制度はいかがでしょうか．まずサマリーを見て，全文を読みたいときはその分だけ費用を支払うようなシステムです.

加地　要約として魅力的な記事があることを紹介して，購読につなげるということですね.

藏内　例えばウイルスに対するワクチンの効果のような記事を掲載すれば，相当なアクセスがあるかもしれないですね．タイムリーで興味深い記事がいくつかあると面白いですね．獣医師ではない一般の方にも会員読者になっていただけばいいと思います.

井土　獣医師会の会員資格は，獣医師の免許が必須ですよね.

境　正会員は獣医師です.

山村　愛玩動物看護師の方々も獣医師会の情報を欲しているのではないでしょうか．今後の会員資格の在り方も考えてはいかがでしょうか．チーム獣医療を支える仲間として，日本獣医師会が愛玩動物看護師の皆さんにも扉を開いていくようにできたらいいですよね.

境　現在は，獣医師でない方は賛助会員という形で，団体，個人が入られる仕組みになっています．また，認定動物看護師などが会員となっておられる一般社団法人日本動物看護職協会もあります．その辺も活用しながら今後に向けて検討していければと思います.

佐藤　やはり冒頭に申し上げましたように，日本獣医師会雑誌の学術雑誌としての方向性を真剣に考えていく必要があると思います．資料などには，学術学会誌としての質の向上と，業績発表の登竜門としての役割の醸成と書かれているわけですが，この両立というのはなかなか難しいところです．例えば小動物の分野では，症例報告を一生懸命書いても，新規性がないとリジェクトされることも多々あるんですね．けれども，その症例報告自体は，同じ病名の発表が過去にあったとしても，ひとつひとつの症例は違っていて，それぞれが別の病気という一面を持っています．そこに新たな学術的価値も生まれてくるわけです．そういう意味で，審査の方向性も含めて，まずどこに重点を置いて進んでいくのかというのをしっかりと考えていく必要があるんだと思います.

今，いろんな学会が出来て，認定医や専門医もたくさん輩出され，それぞれの学会が学会誌を持っているという状況ですけれども，魅力あるものを作るために，複数の学会が相互乗り入れしながら，日本獣医師会雑誌の中で発表していくというような方向性もあるのではないでしょうか．一朝一夕には進まないかもしれませんが，今後，皆さんで意見交換できたらいいと思っております.

横尾　論文の投稿について，若い方は結構トレーニングされているので，まとめ方や投稿の方法に慣れていらっしゃる一方で，高齢の方が今までの業績をまとめたりしようとすると，私の印象ではなかなか難しいかなと思うんです．投稿の支援や相談できる窓口があるとよいですね.

そして，地方会の会報の中で良い記事を全国に紹介することも考えてはいかがでしょうか．また，個人情報の問題でなかなか難しいのでしょうけれども，名簿の提供のようなものもあったらいいな，と思います.

栗本　この雑誌をより魅力あるものにする，学生や女

性獣医師の皆さんに手に取っていただきやすくするためには，表紙のデザインも大切だと思います．今の表紙も長年使われてきた伝統があるものですけれども，毎号違った写真にするといった検討もしてみてはいかがでしょうか．会員による誌面への参加という意味でも，写真を提供していただいたり，もっと気軽に投稿できるコーナーを作ったりしてはいかがでしょうか．何かこう，身近な記事もあるといいのではないかと思います．

境　雑誌に親しんでいただくということはとても重要だと思っております．特に獣医学生の皆さんには，先ほどご紹介したように，今年から5年生，6年生に日本獣医師会雑誌を無償で送っています．また，動物感謝デーには毎年200人以上の日本獣医学生協会（JAVS）の学生さんの支援をいただいています．ただ，今年も含めて2年連続で開催が中止になってしまいましたので，何か代替企画を開催したりする中でJAVSと連携しながら，しっかり対応していきたいと思っております．獣医学生の皆さんの活動を日本獣医師会雑誌の中でも紹介することで親しみをもって記事を読んでいただき，卒業後の獣医師会への入会にもつながるのではと思っているところです．

酒井　先ほど，投稿の支援のお話がありました．かつて本誌ではアドバイザー制度を導入したことがありました．ところがアドバイザーの先生方のご負担が多過ぎて，中止した経緯がありました．やはり投稿する側で，例えば職場で指導するとか，先輩が後輩を指導するとか，そういうつながりに期待してはいかがでしょうか．

なお，論文の審査に際しては，できるだけ採択するようにレフリーの先生方が懇切丁寧にアドバイスをしていただいています．それでもリジェクトされるということは，内容に問題があると考えられます．そうした中で，事務局は投稿者や審査の支援に大変力を入れているということを，私としてはこの場で少し強調させていただきます．

また，生涯研修事業のページについては，多くの専門の先生方が時間をかけ，ご苦労して構成されていますので，第何回というように通し番号を付けたらいかがでしょうか．学生たちもここのページはよく読んでいますので，通し番号があると，ご協力いただいた先生方のご苦労が理解いただけるのではないでしょうか．

閉　　会

境　ありがとうございます．まだまだご議論は尽きないといったところでございますが，お時間ですのでそろそろ閉会とさせていただきたいと思います．最後に，藏内会長から一言お願いいたします．

藏内　本日は長時間にわたり忌憚のないご意見をいただきありがとうございました．大変有意義な座談会となったと思います．

日本獣医師会雑誌には，元来崇高な使命が掲げられています．それを今後ともきちんと継承していかなければなりません．

教育というのは不変と流行，変えてはならないもの，変えていかなければならないもの，これが一番大事だということが昔から言われているわけです．今日の皆さん方のご意見を聞きながら，この言葉を思い出しました．どうか，今後とも日本獣医師会の発展に向けたご支援とご協力の程，どうかよろしくお願い申し上げます．ありがとうございました．

境　藏内会長，ありがとうございました．

本日は長時間にわたりまして，熱心なご議論をいただき，また貴重なご意見を頂戴し，誠にありがとうございました．

先程の藏内会長のお言葉にもございましたとおり，昭和28年10月号，藏内会長も私も生まれる前の本誌発刊当初の誌面には，本誌の使命が次のとおり記されております．「日進月歩の科学の進歩に伴い伸展していくわが獣医技術分野の新しい，権威ある論説，研究を掲げて獣医学術の水準を高め，さらに会員の研究業績を公表公布し，相互の切磋に資するとともに，獣医技術者の団結の中心として本会並びに地方獣医師会の活動状況の報道，会員相互の連絡親睦を密にし，畜産の振興，公衆衛生の推進に努め，以てわが獣医界の発展に大きな役割を果たすことを使命とする．」

本誌の掲載内容，発行形態は時代により変わっていきましても，このような崇高な使命を全うすべく，会員構成獣医師へ知識・技術の研鑽の場を提供するなど，引き続き本誌の発行に努めてまいります．

さらに，本日の皆様からのご提案を踏まえ，本会事業に積極的に取り組むことにより，公益法人としての社会貢献に努めつつ，獣医師の社会的地位の一層の向上に邁進することをお誓いし，座談会を閉会させていただきます．本日は誠にありがとうございました．